

「今後の県立高校の在り方検討委員会地域公聴会」開催概要

1 目的

浜田市エリア及び江津市エリアの県立高校の可能性について、地域の幅広い意見を聴取するため

2 主催

今後の県立高校の在り方検討委員会（事務局：島根県教育庁学校企画課）

3 日時・場所

平成 28 年 9 月 13 日（火）

（浜田市会場）

10:00～12:00 浜田合同庁舎大会議室（浜田市片庭町 254）

（江津市会場）

14:00～16:00 石央地域地場産業振興センター 2F 会議室（江津市嘉久志町イ 405 番地）

4 内容

（浜田市会場）

（1）浜田市要望書の説明

説明者 浜田市長 久保田章市 氏

（2）意見陳述「浜田市エリアの県立高校の今後の方向性・可能性について」

意見陳述者 ①浜田商工会議所 副会頭 樫山陽介 氏

②浜田高校 P T A 会長 久保田英治 氏

③浜田商業高校 P T A 元会長 田中和実 氏

④浜田市 P T A 連合会 副会長 野上智恵子 氏

（3）傍聴者数 38 名（うち報道関係者 4 名）※市関係者を除く

（江津市会場）

（1）江津市要請書の説明

説明者 江津市長 山下修 氏

（2）意見陳述「江津市エリアの県立高校の今後の方向性・可能性について」

意見陳述者 ①トップ金属工業株式会社 常務取締役 林田栄三 氏

②江津市図書館協議会 委員 大西佐和子 氏

③江津青年会議所 副理事長 砂田秀人 氏

④島根県・江津市産業人材育成コーディネーター 横田学 氏

（3）傍聴者数 46 名（うち報道関係者 3 名）※市関係者を除く

浜田市会場の主な意見

【浜田市要望書説明】

各校はより魅力化の努力が必要。3校が役割をしっかりと果たすことが重要である。できることなら3校存続が望ましいが、将来的に少子化がさらに進むのであれば、2校への再編成もやむを得ない。再編成する場合には、各校の特色、役割が生かせるよう副校長の配置及び教育課程などの別体系、別運用に取り組んでもらいたい。

(魅力化の取組例)

- ・浜田商業高校…情報関連で時代に即した学科や福祉系学科など学科改編
- ・浜田水産高校…県外生の受け入れ体制への支援
- ・浜田高校…併設型中高一貫教育校の設置

【意見陳述】

(専門教育に関すること)

1. 大学進学や地元での起業を見据えた教育を期待する。
2. 職業観の育成、キャリア教育の充実を図ること。
3. 地元に専門高校があるから企業誘致ができる。
4. 浜田商業高校は県西部では唯一の商業高校であり、IT人材の育成を行う専門高校として県西部の拠点校とする必要がある。
5. ポリテクカレッジと江津工業高校を有機的に結びつけ、工業高等専門学校的な位置づけとなる方法を検討すべき。

(普通科教育に関すること)

6. 浜田高校と江津高校の統合を検討してもらいたい。
7. 再編成を機に、学区制を撤廃し、広い地域から優秀な人材が集まってくる学校を設置することも必要だと思う。
8. 中高一貫教育校については、学力向上のためにあっても良いが、浜田高校に併設中学校ができれば、中学生が一極集中し、旧郡部の中学校の存廃が懸念される。
9. 定員割れが続く理数科については、その在り方や学科改編の検討が必要である。

(高校の在り方全般に関すること)

10. 浜田と江津を一つのエリアとして、一体的に高校の在り方を検討すべき。
11. 切磋琢磨できる環境をつくり、生徒が充実した学校生活を送るために、また教員数や専門性、部活動を確保するためには、ある程度の学校規模が必要である。
12. 再編成を早目に検討し、魅力ある高校を立ち上げ、私立に対する競争力を高める、というポジティブな発想で石見地区の高校教育を考えていただきたい。
13. 市内3校の存続を望む。
14. 高校が減ると地域がさびれ、子育て世代が住みにくくなる。高校の在り方を考えることは、今後の浜田市の在り方も左右することになる。
15. 今の中学生が何を求めているか、どんな勉強をしていきたいと考えているか、把握する必要がある。

江津市会場の主な意見

【江津市要請書説明】

生徒の能力を伸ばし、可能性を広げるには適正な学校規模が必要であり、できれば魅力化を進めることにより２校の存続を願うが、それ以外を受け入れられないものではない。再編成計画の策定には、地域と十分意見交換をしながら、教育効果が最大となるものとする。

（魅力化の取組例）

- ・ 県外生４名枠撤廃
- ・ 新たな情報発信

【意見陳述】

（専門教育に関すること）

1. 石見地域全体で工業高校、商業高校の果たす役割を考えることが重要である。
2. 工場進出や生産規模拡大には、江津工業高校の存在が非常に大きい。工業高校が重要な地元資産と認識されるべき。
3. 江津工業高校とポリテクカレッジの連携を進め、地域の教育資源を十分に活用した人材育成拠点を確立していかなければならない。
4. ものづくりに興味持つ子供たちを、石見地域の産学官民の協力・連携で育てていくことが求められる。

（普通科教育に関すること）

5. 江津高校も必要だと思っているが、小規模校では、競争原理が働かない。また、人間関係作りが困難となり、チームワークや交渉力が育たない。
6. 反転授業やアクティブラーニングなど能動的、積極的な学びを進める必要がある。

（高校の在り方全般に関すること）

7. 市内２校を現状のまま残すことは、財政的にも教育環境の面でも適当ではない。１校にして、子供たちがより良い環境で学べるようにすべき。
8. 市内２校の統合は避けるべき。両校の特色を薄めることになる。
9. 行政区画を前提とせず、浜田、江津を一体的に考え、産業教育高校同士や普通科高校同士の統合を検討すべき。
10. 地域と関わることにより、地域の課題に気付き、子供たちの生き方や地域貢献につながっていくことが期待される。
11. キャリア教育の充実により、地元で働く、将来地元に戻ってくる子供を育てるべき。

県議会代表質問に対する教育長答弁（平成 28 年 9 月 15 日）

「今後の県立高校の在り方検討委員会」について

（質問）

今年 4 月、教育委員会は、社会の変化や生徒のニーズの多様化等に対応した高校教育の在り方を検討するために、外部有識者で構成される検討委員会を設置されました。そして、その検討委員会においては、浜田市エリアと江津市エリアの県立高校の可能性について先行的に議論され、先般、地域の幅広い意見を聴取・把握するため、両市で地域公聴会を開催されています。

両市エリアについて先行的に議論することは、県全体の県立高校の将来像についての議論を広げ、かつ深めることにつながり、平成 31 年度以降の次期「県立高校再編成基本計画」策定に向けた県立高校の在り方を検討する上でも有意義であると感じています。

そこで、「今後の県立高校の在り方検討委員会」において開催された、浜田と江津両市での地域公聴会の状況と、今後の両市の高校に関する議論の進め方について伺います。

（答弁）

1. 「総合戦略」や「中山間地域活性化計画」を策定する過程で行われた議論や、計画に盛り込まれた課題意識、施策の方向性等を踏まえ、今後の高校の在り方を考えるにあたって、学校教育のみに閉じた自己完結的な発想による検討であってはならないと考えます。

人口減少問題に対処するため、県内のそれぞれの地域は、いわば生き残りをかけて「地方創生」の取組を進めようとしておられます。県は、市町村に対する積極的な働きかけを行いながら、市町村と連携して、それぞれの地域を支えていかなければなりません。

そうした中であって、県立高校の在り方を議論する際には、特に、次のような観点が重要になると考えております。

- (1) 「小さな拠点づくり」の一環として、中山間地域における教育機能をどのように確保していくのか。
- (2) 移住・定住対策を進めるための、地域の魅力づくりの重要な要素である「教育の魅力化」をどのように進めるのか。
- (3) 技術革新や国際環境の変化によって社会の先行きが見通しにくくなる中、島根の子供たちにどうやって「生き抜いていく力」を身につけさせるのか。また、県内産業や医療・福祉等が求める人材ニーズにどう対応していくのか。

というような、観点であります。

「検討委員会」における議論はこれからいよいよ本格化していくこととなりますが、こうした重要な観点について検討が深まっていくことを期待するものであります。

2. また、「検討委員会」は、現在、浜田・江津エリアにおける高校の在り方を、次期計画の基本理念を探るためのリーディング・スタディと位置付けて、集中的に議論を進めておられます。

その考え方は、次のとおりであります。

- (1) まず、浜田・江津エリアでは、平成21年に策定した現行計画の基準や考え方をそのまま適用して統廃合の検討が進められるのではないかと、というような懸念の声が多いため、こうした誤解を早い段階で払拭しておく必要があること。
- (2) また、次期計画に向けた検討に際し、人口減少問題がより厳しい石見地域において、先ほどの三つの重要な観点からの議論を深めていくことで、県内それぞれの地域の実情や課題に配慮した高校の在り方が見えてくるのではないかと。

との考えによるものであります。このような考え方による「検討委員会」の議論の進め方については、適切なご判断と受け止めております。

3. なお、一昨日、「検討委員会」が開催した地域公聴会では、高校存続を望むご意見とともに、次のようなご意見もございました。

- (1) 社会経済、生活などの面で、浜田・江津エリアは一体化しているので、高校の在り方についても両エリアを別々に考えるのではなく、一体的に検討してほしい。
- (2) 普通科高校と専門高校の組み合わせで考えるのではなく、2つの普通科高校の関係をどう考えるか。また、専門高校については、石見地域全体を視野においた産業教育の在り方を検討してほしい。
- (3) 生徒に生きる力を身に付けさせるためには、切磋琢磨できる環境も重要であり、そうした観点で学校の規模を検討してほしい。

などであります。検討委員会における今後の議論の参考となる貴重なご意見を、お聴きすることができたと思っております。

以上でございます。